



日本人と外国人が交流

「にほんごカフェ」を開催

9月14日、レ・コード館で生涯学習講座「日本語サポートー養成講座 にほんごカフェ」を開催し、外国人14人を含む28人が参加しました。本年度2回目となる今回は、日本人と外国人の交流を目的に開催しました。初めての参加者もいましたが、ゲームをしたり、お菓子を食べたりしながら、文化の違いや仕事について話し、交流を深めました。



新冠中学校1年生が

「まちづくり」の提言を発表

9月1日、新冠中学校1年生による「ふるさと学習発表」が行われ、生徒たちは8班に分かれて、まちづくりの提言を発表しました。1学期のフィールドワークや役場各課への聞き取りを通して町の現状や課題について学び、その学びをもとに各班が提言をまとめました。各班からは、地域の特色を生かした「馬カフェ」など、さまざまな提言が発表されました。



旧青年の家が

民間事業者により再出発

8月から、旧青年の家を活用した宿泊施設「Zero Nest One BASE NIKAPPU（ゼロネクストワン ベースニイカップ）」がオープンしました。旧青年の家は、長年にわたり宿泊研修施設として多くの人に利用され、令和7年3月に教育施設としての役割を終えました。現在は、町の公募で選ばれた浦河町の一般社団法人ゼロネクストワンが建物を改装し、スポーツ合宿

などの宿泊施設として活用しています。ゼロネクストワンの上野皓平代表は、「長年、地元で愛されてきた建物なので、60年の歴史を継承するつもりで育てていきたい」と話されました。



こども園年長組が人参を収穫 人参を手に記念撮影

9月7日、認定こども園ド・レ・ミの年長組が園内の畑で人参を収穫しました。

園児は保育教諭から人参の抜き方を教わった後、収穫に挑戦しました。

園児たちは、収穫した人参を手に、うれしそうに記念撮影をしました。



親子で考古学を学ぶ 勾玉づくりに挑戦

9月6日、新冠町家庭教育学級「考古学出前講座」がレ・コード館で開催され、親子13名が参加しました。

北海道埋蔵文化財センターの職員を講師に、遺跡や発掘調査について映像で学び、縄文土器や石器に触れた後、勾玉づくりに挑戦しました。



新冠小5年生が防災を学ぶ 消防署で見学や消火訓練

9月2日、新冠小学校5年生を対象に防災教室が行われました。

児童は日高中部消防組合消防署新冠支署を訪れ、救急車や大型水槽車を見学したほか、水消火器を使った消火訓練を体験しました。

児童からは「救急車の見学や消火器を使うのが初めてで楽しかった」といった感想が聞かれました。

まちの 話題 あれこれ

大学生が新冠町で 学び・体験する

8月に引き続き9月も、大学生が新冠町を訪れ、地域や馬に関わる学びや体験を重ねました。

法政大学の学生が 軽種馬産業を学ぶフィールドワーク

9月7日から10日にかけて、法政大学の学生9人が新冠町を訪れ、「日本のサブレット産業の現場を考察する」をテーマに、4日間のフィールドワークを行いました。2日目と3日目は、町内5つの牧場にて馬の放牧や厩舎の清掃、馬の手入れ、牧草作業などを体験し、牧場での作業を通して、軽種馬産業の仕事や現状について学びました。体験後は、学生同士でそれぞれの活動内容を共有し、まちづくりへの提言について議論を重ねました。昨年このフィールドワークに参加した学生3人も自主的に参加し、今年の学生たちの取り組みを支えました。最終日は役場で「新冠町における軽種馬産業の人材誘致案」と「サブレットコンテンツファンと産業のWIN-WINな関係構築案」をテーマに、3日間の体験をもとにまとめた提言を発表しました。体験活動に協力していただいた牧場関係者の方々も共に、学生たちの発表を聞きました。



東京大学の学生が 馬産地の観光を考える

今年度、新冠町では3回目となる東京大学の学生によるフィールドワークが行われました。

町域おこし協力隊の南隊員が所属する「東京大学コンソーシアム」の取り組みとして、学生4人が「馬産地で観光を考える」をテーマに、8月31日から9月15日まで滞在しました。

学生たちは町民や牧場関係者などに話を聞き、交流しながら町の魅力や課題を探りました。9月14日にはレ・コード館で最終発表会を行い、新冠町の馬産地観光についての提言を発表しました。



東京農工大学馬術部が

乗馬クラブで研修

9月7日から19日まで、東京農工大学馬術部の学生2人が「にいかつぷホロシリ乗馬クラブ」で研修を行いました。大学のコーチと乗馬クラブ職員が同じ馬術部に所属していたことが縁となり、今回の研修となったものです。

学生たちは乗馬クラブで作業をしながら、早朝と夜には乗馬の練習に取り組みました。学生からは「広い馬場で練習できることや、大学では指導者から長時間マンツーマンで指導を受けられる環境はなかったのだ、いい経験になった」と話していました。

